

## 子連れ学会参加のススメ ～学会託児に感謝～

田代 むつみ (たしろ むつみ)

名古屋大学 大学院工学研究科 助教

地盤工学会では2008年の広島大会より、発表会場の周辺に託児スペースを設置したり、近隣の託児施設を紹介する、学会託児を行っています。我が家は、開始当初（長男1歳）から今回の富山大会まで、ほぼ毎回このサービスを利用させていただき、子連れ学会参加も7年目になりました。

今回、最多利用者として（かは分かりませんが）、本稿をご依頼いただきましたので、あらためて「なぜ子供を連れてまで学会に参加するのか？」自問自答してみました。あくまで個人的な感想ですので恐縮ですが、学会託児に興味をお持ちの方が、少しでも増えていただければ幸いです。

いきなりですが、子連れでの学会参加は正直大変です。荷物は何倍にも増えますし、宿も和室とかトリプルベッドとかとにかく大き目な部屋を探して、学会中も常に規則正しい生活、自分の発表スライドを作る余裕もなく（これは子供に関係ない？）大抵は子供を寝かせてから前夜に準備です。子供にとっても、正直迷惑なのかもしれません。知らない土地で知らない人に預けられて、たまったものじゃない？長男がまだ1～2歳の時には、保姆さんに預けて別れる瞬間によく泣かれました（迎えに行く時には『もう迎えに来たの』という顔をされるのですが…さすがプロです）。

では、なぜそこまでして学会に参加するのでしょうか？それは、第1に私自身が、年に1度の研究発表会に行きたいから。自分の研究成果の報告ももちろん大きな目的ではありますが、たくさんの人にとって、最先端の情報を浴びまくり、世の中の流れに何とかついていきたい。子育てを始めて、自分の時間が思うように取れなくなってから、特にこの思いが強くなったように思います。

ではなぜ子連れなのか？それは、何より子供が近くにいる安心感、それから両親や夫など、誰か特定の人に負担をかけすぎってしまうという罪悪感からの解放、そして全国あちこちに家族旅行をする絶好のチャンス、このあたりが正直な理由なのかもしれません。

泣き虫だった長男もついに小学生になり、今年の富山大会では「こども地盤学会」や「防災体験学習」にも一緒に参加することもできました。砂防ダムの仕組みを教えてもらったり、地震の揺れや雨の強さを体験したり、企業ブースではカッコいい重機の模型を見たり（お土産もいっぱいもらえるし）、楽しい時間を過ごしながら、自然に親の仕事の世界を見せることもできました。帰りは少し足を延ばして『黒部ダム』も見学に行きました。2歳の長女には、まだ何のこともやら分からないようでしたが、今までとは少し違った視点でダムや周辺の山々を眺める長男を見ることができ、親子で共感できるものが少し増えたように嬉しく思いました。

「学会託児があるなんてうらやましい」、「子供を連れていきたいけど、見知らぬ土地で託児所を探すのは大変だし…」、「うちの学会では、利用者がきっと少ないから無理だろうな…」こんな話を、同じ子育て世代の人達から聞いたたびに、地盤工学会が大変恵まれた環境であることに感謝しております。大会事務局を始め、学会託児を毎年企画して下さる地盤工学会の関係者の皆様には、この場をお借りして、あらためて御礼申し上げます。

子育て真っ盛りで、しかも託児利用を必要とする会員は、全体から見れば今はまだ、決して多くないかもしれませんが。しかしこのような状況であるからこそ、学会が主体となって、大きな温かい目で支援を続けていただくことが、我々マイノリティにとって大きな支えになっています。今後も、ぜひ学会託児の活動を継続していただき、着実に実績を重ね広く周知していくことで、利用者がさらに増えていくことを願っております。

来年は北九州大会。子供達はもう今から、「新しい保育園（我が家では学会託児をそのように呼んでいます）」はどんなところだろう？と楽しみにしているようです。乗り物好きの息子には新幹線に乗る絶好のチャンス、おしゃべり好きな娘には、新しい先生・お友達と出会えるのも楽しみの1つのようなようです。また子供達と一緒に、研究発表会に参加できることを楽しみにしております。

(原稿受理 2013.8.27)